

アンパンマンと私

学生記者 田中未来(文学部2年)

「アンパンマン」の作者で作詞家のやなせたかし氏が10月13日に心不全で死去した。94歳だった。1988年にテレビアニメ化された「アンパンマン」はテレビ画面の枠を超えた国民的英雄となり、全国の子供たちの心をとらえた。中大生となった学生記者が“追悼文”を寄せた。

♪なにが君のしあわせ なに
をしてよるこぶ

わからないままおわる そんな
のははいやだ!

忘れないで夢を こぼさない
で涙 だから君はとぶんだどこ
までも
(アンパンマンマーチ、作詞や
なせたかし)

幼稚園のころから既に私はイン
ドアなタイプで、公園にも行かずに
家でひたすらアニメを見る毎日を
過ごしていた。

20歳になった今も、そのころと
やっていることはさして変わらない。
5歳にして私の人格形成はある程
度なされていたのかもしれない。

小さいころの私の生きる意味は
「ドラえもん」「ポケットモンスター」そ
して、「アンパンマン」。この3つに
集約されていた。

仮面ライダーに言われそう

そのころはもちろん、ブルーレイ
などという便利な録画機能は存在
しないので、私の部屋はアニメ番
組を録り溜めたビデオテープに占
拠されていた。母の実家にも、祖
母が私のためにとアニメを録画し
たテープをたくさん置いてくれてい
たのを覚えている。

大人になるにつれ、いつのまに
かあんなにあったビデオテープは
全て消滅して、祖母も今は遺影の
中で笑っている。自分の全てのよ
うに思えた「ドラえもん」や「アン
パンマン」を全く見なくなって、祖母
の笑顔がなくても、そこまで心細く

なることもない。しかし、ふとした瞬
間に、幼かったころのさまざまな感
情や抱いていた疑問を思い出す
ことがある。

よく思い出すのは「アンパンマ
ン」に対しての言いようのない感
情だ。幼いながらに、彼は悪を懲ら
しめるヒーローらしからぬところがあ
るなあ、と思っていた。

例えば、“ヒーロー座談会”なる
ものがあるとしたら、仮面ライダー
あたりに「あいつは優しすぎるそこ
ろがあるな。それがあいつの長所
でもあるだけだよ」とか言われて
て…。

実際そうなのである。長所でもあ
るけれど、その頑ななまでの自己
犠牲的な態度に、見ている方は
心配してしまうのだ。そんなことま
で4歳かそこの私が考えていたと
は到底思えないが、おぼろげにア
ンパンマンの痛々しさを感じていた
のは確かだ。

作者である、やなせたかしさん
の考えるヒーロー像は「餓えている
人に食べ物を与える」ことのできる
人だという。

なんたるリアリティだろうか。悪の
組織に狙われる少女や、奇怪な
モンスターの餌食にされかかる少
年なんて、そうそうないだろう。し
かし、“餓え”に苦しむ人々は大勢
いる。

今この瞬間にも、アンパンマン
は、そんな人々に自分の顔をち
ぎって差し出すのだ。顔がどんど
ん削られ、力が弱まりへとへとにな
りながらも「僕は大丈夫」と、敵に
立ち向かう。その光景は、幼い私

には何か悲痛なものに映ったの
だった。

「そこまで、無理しなくても良い
んじゃないのかな…」と。もちろん、
娯楽としてアンパンマンを楽しんで
見ていたのだが、子供ながらに、や
なせさんのこめた思いが透けて見
える瞬間があったのだろう。

20歳になったということで、記
念にアンパンマンにどうしても言い
たいことをここに記しておきたい。

アンパンマン、あなたは最弱の
ヒーローと世間から言われている
けど、そんなことはない。私は知っ
ています。あなたの何がすごいっ
て、自分が絶体絶命でも、「顔が
汚れて力が出ない」などと自分の
身に起きた状況を冷静かつ簡潔
に説明している点です。

あの英雄、松田優作さんだって
最後の作品では「なんじゃこりゃ
あ」しか言えなかったというのに。
いくら痛くても苦しくても、決して戦
うことをやめないあなたの姿を見
て、当時の私は、薄々感付いてい
たと思います。

あなたと違って自分は、苦し
かったら逃げるし、痛かったら戦い
を放棄する。現在の私は脱走兵
のごとく、いろいろなことから逃げ
ている。

だからこそ、私にはまだあなたの
力が必要です。何が私の幸せな
のか、分からないまま終わる。そん
なのは嫌だから、せめてそれが分
かるまでは、私に元気を100倍に
も200倍にもして与え続けて欲しい
のです。

アンパンマン、君は飛ぶん
だ、どこまでも!